

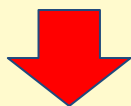
海洋ゴミを海に行かずに減らす方法とは

仙台第三高校

9班

背景

沼や河川から海へとゴミが流入



海だけでなく沼からも対処すべき

先行研究

千葉県柏市手賀沼

2ヶ月に一度ゴミ拾いを実施

→最小で12袋、最大で25袋もの量が回収

=沼にもプラごみが大量にある

研究内容・目的

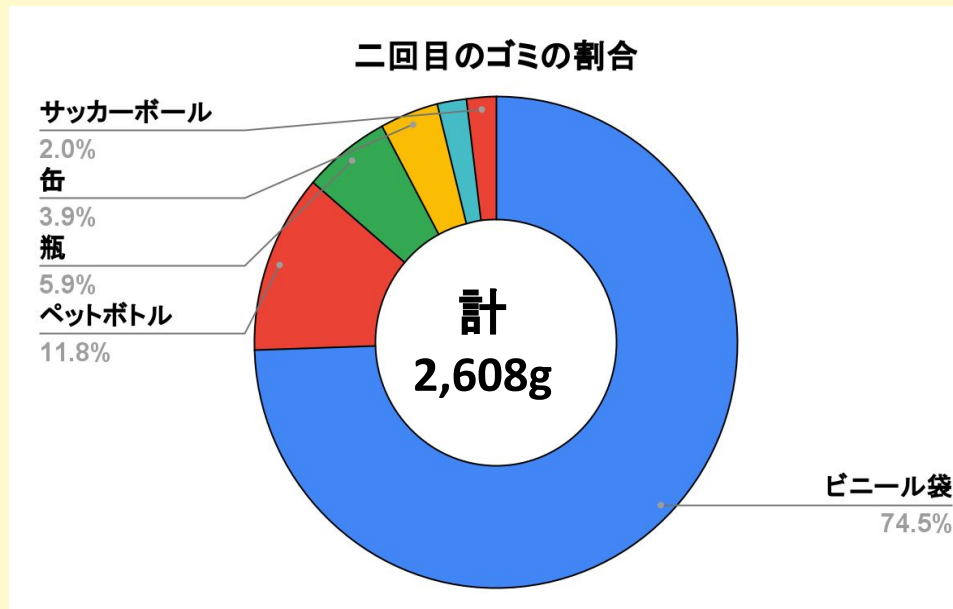
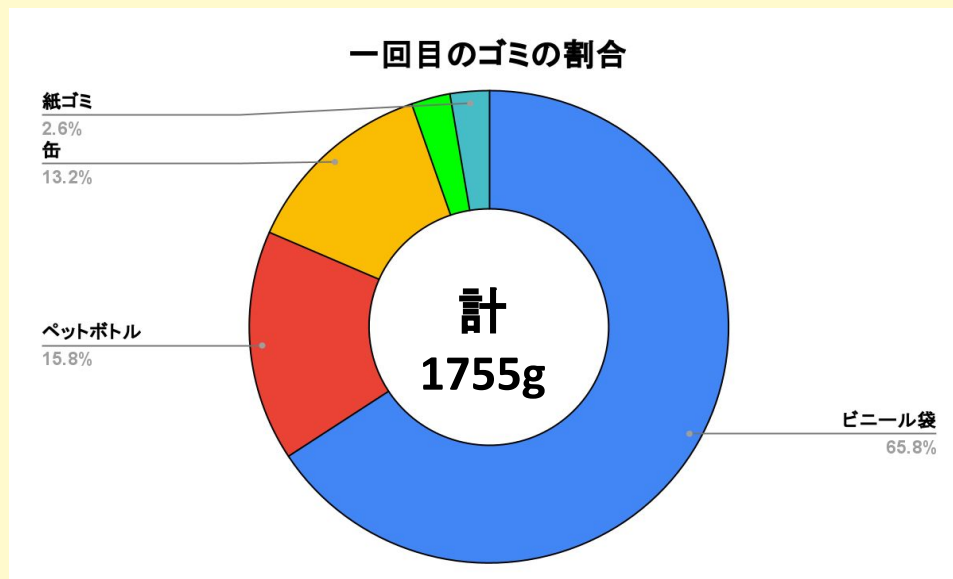
- ・蛍沼のゴミを調査し、蛍沼を通る一本の雨水管から全体のゴミを推測する。
- ・そのゴミの種類などからゴミの減少方法を模索する。

調査・実験方法

- ・1か月間でどれほどの面積から蛍沼にゴミが流れているかを調査
- ・蛍沼(私達が調査する沼)の雨水管に繋がる排水溝がどのくらいの面積を占めているか実際に確認

調査・実験の結果・考察

<調査結果>



一ヶ月の平均は

1,2回目ともに約**435g**

1回...だが2回目は瓶などの堆積ゴミが多く割合を占めた。このことからゴミを取り除くには、プラごみなどのように浮遊する物に限らず、重いゴミにも注目して拾う必要がある。

まとめ

結果より、蛍沼には毎月一定量のゴミが流れ着くことが判明し、そのうち飲食物の空き容器やビニール袋のゴミが多くを占めていることが分かった。これらの浮遊ゴミは川を通じて海に流れやすいため、ゴミ拾い等の活動は地域の環境ひいては海の環境の保全につながる。と考える。



↑調査した雨水管の図

雨水管が占める街の面積(A) → 約63,047㎡
 蛍沼に流入する街の全面積(B) → 約549,413㎡

↓
 (B)の面積の約1/9倍を調査

参考文献

漂流物から散在性ごみまで、琵琶湖のごみ問題
 手賀沼地域クリーンアップ大作戦